

長崎北病院 伝言板 5月号

令和3年5月1日発行

5月。皐月（さつき）。薫風。五月晴れ。皆浮き立ち飛び回る季節。されど今年は禁足令。どこにも行けない。陶器市、植木市。催しもほとんどが中止。ワクチンが普及するまでは頭を下げて飛び交う弾に当たらないように伏せているしかない。



声は出しても良いのです

5月。初夏。光は満ち、新緑は色を増す。若葉の香り、薫風は南より来たる。肌を撫でる風も心地よい。5感で季節を愛でることが出来る季節。外に飛び出す季節。

されど今年は第4波真っ只中。外出制限、イベントは中止、会合、会食自粛。お店も閉まっている。日の光の明るさと裏腹に鬱々とした気分の初夏です。

病院では入院患者さんは入院初日と4日めにコロナ検査で陰性確認。面会は原則禁止。外来ではマスクやフェイスシールドなどで防御しながら診療です。姿が見えないコロナ。少しでも疑ったら検査をしながら診療をしています。幸い今のところは当院では院内感染はありませんが、明日は我が身。コロナに対する意識を研ぎ澄ましなが、本来の役割を出来る限り果たしたいと思います。

さて、最近は食事の時以外はほぼ一日中マスク姿です。付けていないと違和感があります。マスクの効果は皆さんご存知。ウイルスを含んだ飛沫の排出を押さえ、吸入も抑制。手を無意識に口に持っていくのも防ぎます。もちろん、距離を取り3密を



避けることや、換気の励行は基本ですがマスクの効果は科学的に証明されています。その他には、お化粧する範囲、頻度が減ったそうです。外出しない、さらにマスク。口紅などの売り上げが激減。逆にアイメイク関係の化粧品や肌荒れ(マスクによる)対策が伸びているそうです。「眼は口ほどに物を言う」と言いますがマスクで口元が見えない昨今、目元の影響はさらに大きいのかもしれません。白人など欧米人は人と対面すると「口元」に視線が集まるのだそうです。これに対して日本人などの東アジア人は「目元」に視線が集中するそうです。もともと目元から感情を読み取る人種のようなので。そのためマスクに違和感がなく今回のコロナ禍でもマスクが速やかに普及したのかもしれません。医療界では昔から「手術場の看護師さんが一番美人(に見える)」「目元美人」「マスク美人」とも言われてきました。今は誰でも「マスク美人、美男子?」そう言う効果も多少はあるのかもしれません。



もちろんマスクの弊害もあります。肌荒れ、頭痛、頭がぼーっとする、集中力の低下などが報告されています。その他に感情や情報を伝えにくくなる影響があると思います。「眼は口ほどに」とは言っても口元の情報が遮断されている影響は大きい。さらに声はくぐもり、明瞭さを欠きます。声による情報伝達能力が低下します。さらに、コロナの時代、はっきりした声、大きい声を出すことを知らず知らずに遠慮していると思います。感情や意図が伝わりません。コミュニケーションが低下します。

マスクをしていても声は出しても良いのです。マスクをしているからこそしっかり目を見て、はっきり喋る。そしてそのコミュニケーションの入り口、基本は「挨拶」。この所その声も心なしか小さい気がします。当院では今も変わらず、今だからこそ、まずは「挨拶」。立っている柱にも挨拶する気持ちではっきりと。できてますか。(A.S.)



私たちは 患者最優先 (PF: Patients First) の医療を行います。

～思いやりの心～質の高い医療～明るい職場～